

吉田晴行

神奈川支部 支部長

選手も自分の仕事に誇りを持って、補助事業は我々全体でやっているんだという意識で、もっと知るべきだと思います。

今回は横浜国立大学の前田雄介准教授をお訪ねし、ロボットハンドの研究について伺いました。同行していただいた神奈川支部の吉田晴行支部長には、研究室を見学されての感想や、支部についてのお話などをお聞きました。

競輪ってこんなこと やっっているんだ!!

「ファンに優しく」をモットーに
ファンサービスを大切に。
理想は家族で楽しめる競輪場づくり。

理想は家族で楽しめる競輪場づくり。

—今回はロボット研究についてのお話でしたが、いかがでしたか？

「こんなふうに見て説明されるとすごく興味が湧いてきたし、自分の中でもどんどん想像が膨らんで、面白い世界だと思いましたね。身近なところでは掃除のロボットがあったり、まるつきりかけ離れたものじゃないんだなって。ロボットは産業の世界では必要不可欠だと思うし、将来的には介護とか色々な分野で活かされる可能性もあるわけで、やっぱりこういうところにはきちんとお金を投じて、実用化に向けて研究していつてほしいですね」

—こういった研究開発にも競輪の補助金が役立てられています。

「やっぱり自分たちの責任を感じるとい
うか、我々がもっと頑張つて、こういうこと

ろに

ろにどんどん補助してもらえたら素晴らしいことだな。選手も自分の仕事に誇りを持って、補助事業は我々全体でやっているんだという意識で、もっと知るべきだと思います。またお客さんにも自分たちのお金がこんなふう在世の中に役立てられていることを是非知ってもらいたいですね」

—神奈川支部のお話も聞かせてください。

「自分が支部長になってから、『ファンに優しく』ということをモットーに、時間をかけて選手に指導をさせて頂いているんですけど、ファンに対する姿勢や競輪界全体のことなどみんながよく考えてくれていて、そういう部分の意識はすごく高い支部だと感じています。僕はファンサービスって一番大事なところじゃないかと思う

んですよ。(花月園の廃止もあって)選手たちもただ走るだけじゃなくて、いかにファンの人と接して会話をして、金網を除いたところでも喜んでもらえるかの大切さを、改めて知ったんじゃないかな。だから色々な縛りも取りながら、もっと身近にファンと接して行く機会を作るべきなのかなと思ってるんですけど」

—これからの目標や構想などは？

「もっと競輪とは違う分野に携わる人たちと協力し合つて、何かできないかなというのはずっと考えていて。例えば競輪場周辺の住民の方々を取り込んで、年に1回でも競輪や自転車の方が分かるようなイベントをやつたり、ここに来れば自転車のは全部教えてもらえるようなブースを作つたり。僕の理想は家族で楽しめる競輪場なんです。そうすればこれまでとは違つたお客さんにも足を運んでもらえるし、自然と活性化して行くんじゃないかなと思うんですよ」

—ファンの方々にメッセージを。

「気軽に競輪場に足を運んで、どんどん選手に声をかけてください。我々もカップルや女性同士でも気持ちよく来られるような環境作りを心掛けて行きたいと思えます」

